

人間にとっての自然とは資源

- 人間は「自然の恵み」で生きている。
- 恵みとは資源である。
- 森林ベースで考えると、木材資源と非木材資源。
- 「自然と人間のかかわり」とは自然資源の採取の歴史。
- 人間は木材・非木材資源をどのように利用してきたのだろうか？

辻野亮・瀬尾明弘・佐々木尚子

再生可能な資源と不可能な資源

再生可能な資源

森や海、畑で得られる資源(木材・海産物・米など)は再生可能な資源である。管理さえきちんと行えば持続的に入手できる。資源でありながら自然生態系を形作る環境構成要素の一部でもある。

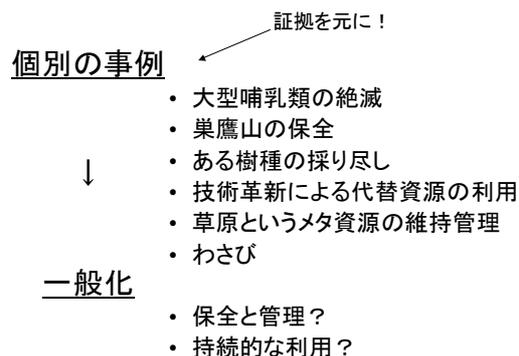
再生不可能な資源(枯渇性資源)

石油や鉱石などは埋蔵量が限られており、利用し続けるとそのうちなくなってしまう。

では、自然資源をどのように利用してきたのか

- 有限な資源は使い続けるとなくなってしまう。
- 人口は増え続ける→消費量が増える
- たとえ再生可能な資源であっても、過度の利用によって持続的に資源が確保できるとは限らない。
- コモンズの悲劇:みんなの資源は早めに使わないと他の誰かに使われてしまう!
- 利用形態:採り尽す／採り尽くさない

プロジェクトとしての現在の位置



なすべきこと

- 人間と自然のかかわりを決定付ける推進力としての人間の「思考・文化・知識」を明確にする。
- 実際の「人間の行動」,たとえば代替品目の開拓や集落の移動,に対してどのような「考え」を元に行われたのかを知る必要がある。

これらを証拠準拠で明らかにしよう!

- 「知識の聞き書き」
- 「文書」
- 「神事・伝統」
 - しかし、文献や聞き書きが必ずしも実際の行動に直結しているというわけではない。
- 「実際の行動観察」,
- 「科学的な動かぬ証拠」,たとえば森林生態調査,花粉分析,植物地理,安定同位体比

- 言っていること
- 考えていること
- やっていること
- これらはしばしば異なる

- 森林で資源というのは最近で**生態系サービス**
- 結果として持続可能であったのかを検証してみよう
- 結果として賢明か
- 支配者側と庶民の思惑と行動
- 「放生と狩り」
- 狩猟に対する抵抗感。免罪的な方便
- 仏教に関わる部分が抜ける。狩りの正当化。贅。「なんとか塚」。
- 諏訪社を管理

生態系サービスという切り口

- 全体でさまざまな切り口があるけれど。。。
 - たたり、など
- 生物多様性を守るための国連による科学的根拠
- サービス
 - Provision財や資源 **今のところここを大事にしている**
 - regulating制御
 - cultural文化的(非物質的)
 - supporting他の生態系サービスを支える

意図しているかはおいて、結果として持続的に利用されているのはどうしてだろう

- どのような作用で起こっているのだろう
- ここに巨樹の森がある。なんでだろう？
 - 国有林だから？その前に巢鷹山だったから
- 現象だけでなく物事が起こってきた人の意図・思い
- 合理的な説明ではなくてもありうる。**自分の代で絶やしたくない**、なども。昔の意図からはなれて変えたくないという「思惑」をもとに価値付けを変えてゆく(変わってゆく)
- 「後は野となれ山となれ」では先祖の努力に対して申し訳ない

- 景観ができあがった後に別の利用をする。結果として別のさまざまな効能が現れる
 - 縄文杉はせっかく残ったのだから残しておこう
 - 現在の技術では材に出来るので切ってしまうのがwise useか？
 - 困難な場所に出来た棚田を潰すよりも美しい景観として残した方が新しい利用としてwise use
- 里山、「これではもうだめだ」となってから自治管理を行うようになったのでは。

これからの環境問題プロジェクト

- 「**未来可能性**」・「人間－自然相互作用環」
- 智慧を発展的に継承する
 - でも、具体的にどうしたらいいのだろう
 - 地元への情報や智慧、研究結果の還元
 - 「率直なお言葉集」
- 「賢明な利用」に留めてはいけない
- あとの2ヶ月で何をするか。
 - 中間評価を乗り切るための材料
 - 個別の事例における意識性の共通性やパターンを法則化
 - 大題目を唱えるよりも今ある情報をもっと整理して補える部分は補い、「さらにこれこれを追求すべきだ」とする
 - 現在の位置づけ(プロジェクトの未来可能性)
 - 他の班を見て自分の班ではどのようなことが出来るのか

議 題

- 長期的方向性
 - このプロジェクトのゴールは？
 - あと3年、どちらを向いて進んでいくのか？
- 短期目標
 - 次回の全体会議の進め方

WISE USEの対象

- 短気目標:個人・社会、倫理・規範(たたり・タブー)の根拠

↑
interaction
↓

- 公的政策・法制・経済システムetcの具体的なあり方・ねらい(合目的性・合理性)
- 長期目標:保全・保守主義の論拠←why

- 日本列島の問題なので、地域レベルだけでなく広がり軸、時間軸をどのように入れるのか。
- 地域レベルを3年目から列島レベルに広げてゆく(燃料革命や地租改正は地域を越える)

全体集会では

- 個々のトピック的な研究を発表するためにポスターセッション(華美な物でなくてもよい。縮刷でも)をしてもよい
- ポスター会場=集会会場=懇親会会場
- 共通課題=環境変遷とそれを支えた人の考え方
- 未来可能性の志はあるけどまだ

地球研の改革

- テーマごとに5つに統合
- 副センター長、秋道さん
- 研究推進戦略センター
- 10月1日から
- 地球研は世の中にメッセージを発しなれば行けない
 - 「多様性はなぜ地球環境問題か」

- 未来可能性の時間スケール?
 - 人間社会がどうなるかは外挿ではよく分からない。せいぜい30年くらいの未来。30年間くらいの目標を決める
- 外に発信する機会を企画したらいいのでは。他の班の話を別の地域で話してみるなど。
 - ぜひ、3年目から、出来るところからやりましょう
- HPはどうなっているのか

- 発表資料などを全体に配るのか？
 - 要旨集(配付資料込みの修正版)と議事録をメンバーに配信
 - 12月全体集会前に読めるようにする